

一月十九日(未)

一月山行・福島市十万劫

正方劫正

発行所
三本松市新生町
あたら山の会
編集部

●編集部連絡先
二本松市茶園1-163-3
0243(23)4425

十万劫山は福島市東部花見山公園の近くにある。山頂近くに無線塔があり、二本松市電ヶ城公園からも見る事が出来る。午前九時、ベイシア駐車場集合。菅原善雄さんの奥さんと、菅原善雄さんの娘さんは、富美子さんの娘さんを加えて、参加者は六名となつた。何度も行っている菅野善雄さんの案内で、コースは花見山発→花見山山頂→稜線分岐→十万劫山頂→天徳寺峠→茶屋沼→花見山戻り



12時30分、昼食休憩終えて山頂出発、手前に三角点

が十七センチほど積もつていて、車の轍もあったので車で山頂まで登って来た人もいるのだ。山頂、樹林のため見通しが良くないが、西側に大きく安達太良連峰が、北側には福島市街と遠

の周回コースとなつた。まず阿武隈川東岸を走つて福島市花見山へ。この時期登山者は少ない、というか居ないので、花見山阿部さん宅下の駐車場に止める事が出来た。

午前九時四十四分登山開始、まずは花見山の散歩道を登る。雪はあるが靴は滑らない程度。下の方では黄色のロウバイが花盛り。二十分ほどで花見山頂到着、福島市街の眺めが良い。これから裏に回り十万劫山方面に進む。十本ほどの四季桜が花盛り。ここからは稜線に向かつて登る。途中では「ウサギの足跡」、「リスの食痕エビフライ」など見付けることが出来た。背の高い樹林帯で十一時には稜線分岐着。此所まで花見山入口から一時間十五分程度。分岐からは稜線を東に辿り午前十一時五十四分、広い十万劫山山頂に到着した。日射しはあり風もなく暖かな日で、昨日からの雪

A photograph showing three hikers from behind as they walk away on a snow-covered path. They are wearing colorful winter gear and backpacks. The path is lined with tall, leafless trees. In the background, there is a small wooden building, possibly a cabin or a shelter, with a fence around it. The ground is covered in a thick layer of snow.

11時52分 十万劫山頂到着

く吾妻連峰が見える。天井山も近いはず。葉っぱの落ちた今でもこうなのだから、葉が茂った時期、見通しは殆ど望めない。

星食後十二時半山頂発、天徳寺峠を目指す。途中に無線塔が二基ある。低い方は福島市消防本部の中継装置のようだ。無線塔の間には崖で樹林がないため、福島市街が望める。峠には茅葺屋根の建物（元の天徳寺？）と天徳寺がある。此所まで二十分。ここからは北側に下る。日影なので雪は一寸深い。車も通る道なのだが、有り難いことに出会うのが少なかった。十三時三十分。

六分人家まで下がつてきました、「茶屋の桜」だ。ここからは車道歩き。ここには昭和三十年代そのままの「山の入」バス停があった。市街地の商店などの看板が一杯張つてあるが、電話の局番が一桁だ。ある意味で貴重品。間もなく茶屋沼公園、ただトイレは凍結防止のため使用できない。更に下って十四時二十分、花見山下の大きな駐車場に出た。ここでのトイレは開いていた。このあたりから十万劫山頂近くの無線塔も見えまる。十四時三十五分、無事阿部さん宅下の駐車場に戻ることが出来た。

一月三日は岩角山の初審
祭だが、祭が目的でない。
朝九時家を出発、舟形石・
菅田橋を通り、旧白沢村へ。
岩角山頂奥の院に着いたのが
十二時三十分、参拝をし、
昼食。菅田橋あたりでは暑

で皆と山談義を樂しい一時を過ごす事が出来た。午後二時小屋を出る。途中雪の中自転車を押して登って来た若者や、小屋泊まりのグループが上がつて来る。中には初めての人なののか「小屋まであとどの位ありますか」など聞く人もいた。奥岳三時三十分に下山。今年も元日登山出来て最高。

個人山行、元日ぐろが岩角山初寅

A wide-angle photograph capturing a bustling outdoor scene in Japan. In the foreground, several people are walking through a garden filled with green bushes and trees. To the right, a large, ornate stone lantern stands prominently. The background features a series of traditional Japanese buildings with dark, tiled roofs and light-colored walls. A red banner hangs across one of the buildings. The overall atmosphere is one of a busy, everyday setting in a historical or culturally significant location.

岩角山初审祭

祭「かち」で参加 報告 菅野善雄
い位だったが天気が急変、温度も下がり雪もちらついて来た。長居は無用、早々に下山。午後一時の「梵天取り」を写真に収め、帰路につく。石井の西荒井に来た頃から足の痛みを感じ、舟形橋に来た頃は痛みがひどくなる。二本松市街地に入った頃には痛みはビーグルに達してきた。家に電話を入れようかと思ったが、後三キロ約一時間の我慢と痛みを堪え、家に着いたのが四時四十分、靴を脱いで足を見ると、足の底は赤く腫れ上がっていた。山では七時間や八時間歩いても最近こんな事はなかったが岩角山だった。